

令和元年度事業報告について

令和元年度は、世界的アーティストによる現代アート作品を神戸の市街地西部に展開する「アート・プロジェクト KOBE 2019：TRANS-」の開催や、ベートーヴェン生誕 250 年を記念して神戸市室内管弦楽団が全交響曲、全協奏曲を連続演奏する「ベートーヴェン・チクルス」に挑んだ。また、他都市の公立文化施設と連携した村田沙耶香×松井周 inseparable 新作公演「変半身（かわりみ）」を上演するなど、質の高い大規模な事業を実施した。一方、「神戸文化マザーポートクラブ」の運営を担うなど、神戸ブランドの創造発信に資する活動にも力を注いだほか、令和 2 年度からの文化センターの指定管理開始に向けての準備を行った。しかし、年度終盤は新型コロナウイルス感染症の拡大により、事業イベントが延期・中止となる想定外の事態に陥った。文化・芸術の危機ともいえる状況の中、事業の在り方や開催方法について新たな対応を模索するなど、コロナ禍をどう克服するか試行錯誤を続けている。

(1) アート・プロジェクト KOBE 2019：TRANS-（TRANS-KOBE）の開催

「世界に神戸を発信」し、「アートで人の賑いをつくり地域を活性化する」ことを目的に、兵庫区南部、長田区南部エリアを舞台に、世界的に活躍する現代アートの作家 2 人（グレゴール・シュナイダー、やなぎみわ）を招聘し現代アートを中心とした展覧会を開催した。同イベントにおいて現代アートを楽しむきっかけとなる機会となるよう芸術文化を担う団体やクリエイター、パフォーマー等と連携し市民や来場者が参加できるパブリックプログラムを併せて実施した。

(2) ベートーヴェン・チクルス

ベートーヴェン生誕 250 年の節目の年にあたり、神戸文化ホール等において、ベートーヴェンの全交響曲・全協奏曲を演奏するコンサートをシリーズ化し、令和 2 年度と併せて計 7 回・9 公演を開催予定。令和元年度は 11 月・1 月に 2 公演を実施し、神戸市室内管弦楽団、神戸市混声合唱団のほか、国内外より著名な指揮者、ソリストによる神戸ならではの音楽を発信することで、両団の周知・魅力発信に努めた。（※新型コロナウイルスの影響により 3 月開催分（2 公演）は翌年度に延期）

(3) 村田沙耶香×松井周 inseparable 新作公演「変半身（かわりみ）」

公立文化施設として先駆的な取り組みで実績を高めている他都市の施設（ロームシアター京都、三重県文化会館、東京芸術劇場）と連携して企画・製作公演を手掛け、新たなネットワークを築きながら神戸文化ホールの活動を全国に向けて発信する端緒とした。また文学賞を受賞した作家同士のコラボレーションとして市立図書館との協力企画や、現代演劇の旗手・松井周のワークショップでは阪神間の大学演劇サークル等とも交流した。

(4) KAVC FLAG COMPANY 2019-2020

いま観てほしい若手劇団をシリーズで紹介した KAVC FLAG COMPANY 2019-2020。令和元年度は、関西の 7 劇団を KAVC 舞台芸術プログラム・ディレクターであるウォーリー木下氏が選出し共催公演を行った。劇団にとっては新作公演の場として、観客と新しい劇団との出会いの場を創出した。また関連企画として公演劇団とのアフタートークやワークショップを開催したほか、批評家、演出家、学生など様々な立場から執筆された劇評を公開した。

2 事業の実施状況

公益目的事業

1 文化振興事業

(1) 事業方針

- ・市民の文化向上に資する質の高い鑑賞型事業の提供
- ・芸術文化による神戸ブランドの創造発信
- ・市民参加型芸術文化事業の充実
- ・地元芸術文化団体との協力関係の強化及び若手芸術家の発掘・支援
- ・情報収集・提供の充実（多様な文化芸術の紹介）
- ・芸術文化を担う人材の育成

(2) 事業内容

①市民の文化の向上に資する質の高い鑑賞型事業の提供

市民に感動を与え、感性や創造性を育む質の高い芸術を鑑賞出来る機会として、ウィーン・フィル所属のヘーデンボルク直樹率いるヘーデンボルクトリオによる演奏会を開催した。また、病院等においてプロのアーティストによるアートプログラムに触れる機会を創出し、ホールに来ることが困難な人に対しても鑑賞機会の提供を図った。

②芸術文化による神戸ブランドの創造発信

ラグビーワールドカップ 2019 の開催に合わせて実施された「アート・プロジェクト KOBE 2019 : TRANS-」と連携して、「KOBE ミュージックポート～秋の音楽祭～」を開催したほか、令和3年夏に実施する「第10回神戸国際フルートコンクール」に向けた準備など、神戸ブランドの創造発信を行った。また、「ジャズの街神戸」推進協議会の事業では、「神戸ユースジャズオーケストラ」の活動推進や、「KOBE JAZZ DAY 2019」等を実施した。

③市民参加型芸術文化事業の充実

アート・プロジェクト KOBE 2019 : TRANS- の中で現代アートをより身近に感じてもらえる機会として公募により選定した市民参加型のパブリックプログラムを開催した他、公演等の鑑賞だけでなく、市民が芸術文化活動を発表する機会や場を創出するため、KOBE ミュージックポートの中で「フルート 500 人アンサンブル～みんなで奏でる大人数オーケストラ～」や、「60歳からのデビュー・あなたにシャンソンを」を実施するなど、市民参加型事業を展開した。

④地元芸術文化団体との協力関係の強化及び若手芸術家の発掘・支援

神戸文化の基盤となっている地元芸術文化団体への活動支援および協力関係の強化を図るとともに、「神戸市吹奏楽祭」、「JAPAN STUDENT JAZZ FESTIVAL」等を通じて、今後の神戸文化の担い手となる若手人材の育成を支援した。また、KOBE ミュージックポートでは、神戸で活躍する若手アーティストと連携し、デュオ神戸 DUO ドームでの特設ステージ「EN/TRANS- (エントランス)」を開催した。

⑤情報収集・提供の充実

多種多様な芸術文化活動を広く紹介するため「KOBE C情報」を発行するとともに、インターネット（ホームページ、SNS）等の手法を用いて積極的な情報収集・発信を行った。

⑥芸術文化を担う人材の育成

各種事業を通じて、アートマネジメント能力の深化や向上を図るとともに、市民及び学生のボランティアスタッフを活用するなど「担い手」の養成・機会確保に努めた。

2 演奏事業

(1) 事業方針

- ・神戸文化ホールおよび区民ホール等における質の高い演奏の提供
- ・演奏水準のさらなる向上
- ・広報強化・アウトリーチの実施による両楽団の周知
- ・自主公演への集客強化と新たな依頼公演の獲得

(2) 事業内容

①神戸市室内管弦団

2カ年にわたりベートーヴェンの全交響曲・全協奏曲を演奏する「ベートーヴェン・チクルス」が始動。国内外より著名な指揮者・ソリストを招聘し、楽団の特色を生かした演奏会を開催した。また、3カ年事業の最終年を迎えた「CLASSIC PLUS」では、世界で活躍する神戸ゆかりのアーティストを招聘するとともに、一柳慧の委嘱作品の世界初演や神戸タータンとのコラボレーションした会場づくり、音楽評論家による事前講座などを実施した。

(ベートーヴェン・チクルス第2回は新型コロナウイルス感染防止のため延期)

②神戸市混声合唱団

設立30周年を記念し、指揮に海外で活躍する山田和樹を迎え、東京混声合唱団との初の合同公演を開催した。また、秋の定期演奏会では、国内で著名な指揮者を招聘し、アカペラや2台のピアノを使った演奏など様々な編成で演奏した。

(春の定期演奏会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)

③両団周知の取り組み

2つの楽団を持つ強みを活かし、合同公演を区民センターで初めて開催するとともに、商店街やショッピングモールでのまちなかコンサートにより、両団の周知および魅力発信を行った。

また、子どもと一緒に鑑賞できるコンサートを新たに区民センターで実施したほか、次代を担う子どもたちに対する鑑賞機会の提供のため、小学生を神戸文化ホールに招待する「インリーチ事業」と、6年間で市内全小学校へ出張演奏を行う「アウトリーチ事業」に取り組んだ。

項目	自主公演 (講座等含む)	依頼公演	合計
公演数	46 (3)	120 (4)	166 (7)
入場者数	11,256 人	31,970 人	43,226 人

※括弧内は新型コロナウイルス感染症の影響により中止、延期となった事業・公演数

3 神戸文化ホール公演事業

(1) 事業方針

- ・文化ホールを拠点とした芸術創造・発信事業の積極的な展開
- ・優れた舞台芸術の鑑賞機会の提供及び鑑賞教室や解説セミナーなどの実施
- ・財団のネットワークを活用した市民・芸術家・文化団体などとの交流及び連携事業の実施

(2) 事業内容

①芸術創造・発信事業

財団所属の神戸市室内管弦楽団と神戸市混声合唱団による定期的な公演を実施し、財団の特徴ともいえる音楽事業の充実に努めた。

また、地元の文化団体である和太鼓松村組や貞松・浜田バレエ団、神戸能楽協会との共催事業や地元の落語家と組んだ大倉亭など地域色を盛り込んだ事業に積極的に取り組んだ。

②教育普及・育成事業

毎年取り組んでいる能、狂言、歌舞伎の鑑賞教室や解説セミナー、また市内の小学6年生を招待する劇団四季「こころの劇場」に加えて、現代演劇「変半身（かわりみ）」公演を題材に市立中央図書館でのプレトークや体験ワークショップなど新たな試みに挑戦した。また前年度に続いてサマージャンボリーを実施し、ホールで幅広い世代が気軽にアートに親しみ交流することにも努めた。

③鑑賞・学習事業

恒例の「東西落語名人選」や「松竹大歌舞伎（座頭 中村鴈治郎／封印切ほか）」に取り組むとともに、新たな観客層の開拓を目指し、他館との連携で芥川賞作家（村田沙耶香）と岸田賞作家（松井周）の共同創作による新作公演という企画性が高く製作力を試される現代演劇「変半身（かわりみ）」公演に取り組んだ。

また映画事業「文化ホールキネマ」でも“文化ホールならではの”の視点で作品を厳選し企画性を高めた。

(3) 文化ホール公演事業実績

〈事業別〉

	事業数	公演数	入場者数
芸術創造・発信事業	17 (4)	24 (4)	14,741
教育普及・育成事業	10 (1)	19 (3)	18,416
鑑賞・学習事業	15 (1)	32 (1)	24,853
合計	42 (6)	75 (8)	58,010

※括弧内は新型コロナウイルス感染症の影響により中止、延期となった事業・公演数

〈部門別〉

	事業数	公演数	入場者数	備 考
音 楽	18 (2)	25 (2)	25,824	クラシック13 合唱2 ポピュラー3 邦楽2
舞 踊	1 (1)	2 (1)	3,245	バレエ2
演 劇	7 (1)	17 (1)	22,551	演劇3 能1 歌舞伎2 ミュージカル1、その他1
演 芸	10 (1)	23 (1)	5,646	落語7 映画4
その他	6 (1)	8(3)	744	講座2(能2) トークイベント1(演劇1) ワークショップ3(演劇1、ダンス1、映像1) フェスティバル1
合 計	42 (6)	75(8)	58,010	

※括弧内は新型コロナウイルス感染症の影響により中止、延期となった事業・公演数

4 神戸文化ホール貸館・管理事業

(1) 事業方針

- ・弾力的なホール運営と専門性の高いサービスの提供
- ・施設利用者、来館者の意見を反映したホール運営
- ・文化の発信拠点として地元芸術団体・若手芸術家を支援
- ・基幹ホールにふさわしい安全・安心な管理運営

(2) 事業内容

①弾力的なホール運営と専門性の高いサービスの提供

年中無休、早朝仕込み・深夜撤収など、利用者ニーズに応じた弾力的な運用を継続実施した。

また、体制を強化した舞台スタッフによる専門性の高い舞台表現に対するアドバイスと舞台運営、ホスピタリティ溢れるホール運営及び利用者のサポートを引き続き実施した。

②施設利用者、来館者のご意見を反映したホール運営

利用後のアンケート調査や「お客様の声 BOX」でお寄せいただいたご意見・ご要望を基に、ホール運営全般の改善に努めた。具体的には、オペレーターを増員して、チケット電話予約への迅速な対応を行った。

③文化の発信拠点として地元芸術団体・若手アーティストを支援

抽選会における優先利用制度や練習利用の割引料金制度による地元芸術団体、若手芸術家の活動支援を継続して実施した。

また、若手芸術家の発表及び交流の場としての大ホールのロビー活用を継続した。

④基幹ホールにふさわしい安全・安心な管理運営

ホール全般にわたる日常的な点検の実施、不良箇所への速やかな対処に努め、市の公共基幹ホールにふさわしい安全・安心な管理運営を行うとともに、市と連携して、屋上防水工事の実施やトイレ改修に向けた準備など老朽化した施設・設備の改修に取り組んだ。また新型コロナウイルスの感染症拡大に伴い、清掃業務の拡充や手洗いうがいを敢行するポスターを掲示し市民への注意喚起を行った。

(3) 貸館・管理事業実績

		大ホール	中ホール	練習場	合計
利用件数(件)		299	299	2524	3122
入場者数(人)		299,696	115,637	42,621	457,954
利用率 (%)	踏入率	75.9	70.3	96.0	
	実利用率	66.0	65.3	77.7	

(※収益事業による利用を含む)

5 神戸アートビレッジセンター（KAVC）事業

（1）事業方針

- ・先進的な芸術文化の事業の実施
- ・アートの世界への入り口となるワークショップや講座の実施
- ・市内外の文化施設や教育機関等との交流・連携
- ・まちの賑わい及び活性化への寄与

（2）事業内容

①演劇・舞踊事業

KAVC FLAG COMPANY 2019-2020 のほか、多様な舞台芸術の鑑賞機会を提供すべく兵庫県劇団協議会、蛸の階、いるか HOTEL、アンサンブル・ゾネなどと共催公演を行った。また、演劇やダンスに親しんでもらうため、ウォーリー木下、森田清子、市田京美、岡登志子、ジュリア・イーストランドなど、様々な分野から講師を招きワークショップを行った。

②美術事業

中堅作家を対象にしたプログラムで2回目となる ART LEAP では、中国にルーツをもつ作家潘逸舟を選出し、新作個展「いらっしやいませようこそ」を開催した。神戸に何度か滞在して外国人コミュニティをリサーチし作品を作り上げたが、新型コロナの影響で、展覧会は10日間で中止となった。シルクスクリーンは、Tシャツプリント、手ぬぐい一反刷り、製版ワークショップと開催し、好評を得た。

③映像事業

KAVC CINEMA として、毎月映画の上映を行った。商業的なシネマコンプレックスでは取り扱いの少ないドキュメンタリー作品や、美術や音楽などアートを題材にした作品を主に選択して通常番組を編成した。また、特集では藤田敏八監督特集や、神戸にゆかりのある映画人をテーマにした昔のフィルム作品を含めたプログラムを編成、上映した。ナショナル・シアター・ライブや、ゲキ×シネなど、演劇舞台を映像化したものも積極的に上映している。

④音楽・地域事業

子ども向けのワークショップ開催のほか、(一財)地域創造の現代ダンス活性化事業を活用し、湊川中学校3年生全員を対象としたアウトリーチプログラムを実施した。また神戸の単館映画館4館が協力して開催するシネマポートフェスは、商店街の飲食店等にも協力メニューをご提供いただくなど賑わいづくりに寄与した。

（3）神戸アートビレッジセンター事業実績

〈事業別〉

	事業数	公演数	入場者数
演劇・舞踊事業	38 (2)	132 (4)	8,094
美術事業	17 (1)	97 (16)	933
映像事業	19 (1)	486 (28)	5,860
音楽・地域事業	26 (1)	53 (1)	9,610
合計	100 (5)	768 (49)	24,497

※括弧内は新型コロナウイルス感染症の影響により中止、延期となった事業・公演数

6 神戸アートビレッジセンター（KAVC）貸館・管理事業

（1）事業方針

- ・柔軟な施設運営と専門性の高いサービスの提供
- ・若手芸術家の支援及び地元地域団体との協働
- ・複合文化施設にふさわしい安全・安心な管理運営

（2）事業内容

①柔軟な施設運営と専門性の高いサービスの提供

小劇場ならではの柔軟な貸館対応、専門性の高いサービスを提供するとともに、早朝の仕込みや閉館後の撤収など利用者の状況に応じた対応に努めた。

また、アンケート等で寄せられた来館者のご意見・ご要望に対し速やかに対応するとともに、スタッフ研修等を通じ、サービス意識の共有化を図った。

②若手芸術家の支援及び地元地域団体との協働

若手や学生劇団（サークル）など、発表機会の少ない団体への活動支援として、専門スタッフによる打ち合わせ・相談・アドバイスなどサポートを行った。

また、1階のコミュニティスペース1 roomでのチラシ設置や神戸アートビレッジセンターの公式サイト内での公演紹介など広報協力を通じて積極的な支援を行った。

一方で、新開地周辺の地域団体との連携・協働によるイベントの実施、あるいは食堂の誘致など様々な事業に関わり、地域の活性化に貢献した。

③複合文化施設にふさわしい安全・安心な管理運営

安全・安心な管理運営では、日常点検、定期点検、法定点検を着実に実施し、設備の不良個所への速やかな対応に努めた。神戸市と連携し、給排水管や空調機器など供用開始後20年経過し老朽化した設備の改修、更新を実施するとともに、貸出用の備品等を更新し、利用者の要望に応えた。

令和元年度は、ホール及びシアターの舞台照明設備においてLED化を図った。

7 区民センター講座・地域連携事業

(1) 事業方針

- ・「地域住民とともに歩む区民センター」として市民の文化活動ニーズに対応
- ・講座事業や地域連携事業の実施
- ・「区民センターサポーター」などによる事業運営への住民参画
- ・財団が有する文化事業運営ノウハウや、文化団体との人的ネットワークを活用

(2) 事業内容

①講座事業

入門者・初心者対象の文化・教養・スポーツ等の講座を、(i)低廉な料金で、(ii)春季・秋季の「定例講座」と、季節や住民ニーズ等を反映する「随時講座」も交え、(iii)年間を通じて開講した。

新規講座を開設する一方、受講率の低い講座の見直しや講師報酬の歩合制の見直し等により収支改善に努め、また、伝統芸能等の伝承等、公益財団法人として取り組む必要のある講座等にも配慮しつつ受講者数の拡大を図った。

②地域連携事業（地域住民参加型のイベント及び地域文化活性化事業）

住民の「発表する」ニーズ及び専門家による芸術文化を「鑑賞する」ニーズに応える地域住民参加型の自主事業「イベント事業」や、各地域の歴史や伝統文化、個性を生かしつつ、参加や鑑賞等、住民が芸術文化に触れたり、日頃磨いた技を発表したり、お互いに交流する機会となる「地域文化活性化事業」を企画実施した。

各センターの特色を生かし、地元住民・団体との協働による住民参加型行事に取り組み、地域の大学・高校・中学校・婦人会等と連携した「東灘区民文化祭」や地域に伝わる伝統文化「農村歌舞伎」を北、西区民センターにてそれぞれ実施した。

また、「市民の第九」や「みんなでハレルヤ！」など、神戸文化ホールと各センターとの連携事業のほか、地域の保育所等に演奏家が赴くアウトリーチ等地域の文化振興のための各区の中核施設にふさわしい管理運営を行った。

③作品展示会・発表会

区民センターのギャラリーやロビー、ホール及び花時計ギャラリーにおいて、講座受講生をはじめとする市民の絵画、陶芸、写真等の作品展示会や舞踊、音楽等の発表会を実施した。

8 区民センター貸館・管理事業

(1) 事業方針

- ・料金割引制度や利用団体への広報・相談サポートなどの向上と積極的な広報活動による利用促進
- ・長年培ったノウハウの活用による、安全・安心で快適な利用環境の提供

(2) 事業内容

①サービスと利便性の向上

休館日が祝日にあたる日の開館やインターネット無料接続サービスの提供およびインターネットを利用した予約受付を継続したほか、老朽化したセンターにおいては市と連携してトイレ改修や照明器具改修等を実施した。

②地域文化団体との連携強化による情報発信や運営サポート支援

地域文化団体の利用料金割引を実施し、地域団体が利用しやすい環境を整えるとともに、館内の掲示板や区民センターだよりなどを活用し、貸館利用団体のイベントの広報に協力した。

③積極的な貸館セールス

「区民センターだより」発行、区民センター友の会の運営を継続したほか、近隣のマンション管理組合などへの積極的なセールス（ポスティング）等PRを強化した。

④省エネルギーや環境を意識した設備管理

日常的な環境保護の取り組みを広く発信するため、印刷物に神戸環境マネジメントシステム（KEMS）ステップ2の認証を掲載するとともに、未利用フロアの消灯や電球のLED化などを進め省エネルギー化に取り組んだ。

⑤文化センターの指定管理に向けた準備

令和2年度より旧勤労市民センター（六甲道、兵庫、新長田、垂水）と北須磨文化センターが新たに「文化センター」として、当財団の指定管理施設として加わることとなり、運営開始に向けた準備を行った。

9 広報事業

文化振興事業の市民への周知、文化芸術への市民参加の機会拡充、財団の収益向上等の観点から、財団の広報体制を確立するとともに、メディアの活用など多様な手段により、積極的に広報PRに努めた。

(1) 文化情報誌の発行

	回数	発行部数	備 考
KOBE C 情報	12	35,000 部／月※ ※平成30年10月号より50,000部から変更	市内をはじめ周辺地域を含めた文化に関する情報を幅広く掲載。 市内公共施設、文化施設、地下鉄各駅など公共交通機関等で配布（毎月23日発行）。
ほーるめいと	6	22,000 部／隔月	神戸文化ホールの催し物及び神戸市室内管弦楽団及び神戸市混声合唱団の公演情報を掲載。 友の会会員をはじめ、市内公共施設、文化施設、主要駅などで配布。（隔月20日発行）。

(2) 神戸アートビレッジセンターからの情報発信

	回数	発行部数	備 考
マンスリーニュース	12	500 部／月	KAVC で開催される自主事業、貸館事業のスケジュールをまとめたもの。 プレス等への発送と、KAVC 館内の設置・自主事業挟込等（毎月月末発行）
ART VILLAGE VOICE	4	8,000 部／ 季刊（年4回）	KAVC の催し物や、新開地周辺地区の情報掲載した広報誌（年4回発行） 会員を始め全国の美術館、劇場、映画館など文化施設への発送

(3) 区民センターからの情報発信強化

区民センターからの情報発信機能の充実強化を図るため、チラシやホームページでの情報提供のほか、ポスティング、区民センターだよりの発行、固定客・リピーター確保のための友の会運営に取り組んだ。

(4) インターネットによる情報発信

財団が主催する主要事業等を幅広く紹介するとともに、神戸文化ホールや神戸アートビレッジセンター、区民センターの空室情報や区民センターの講座受講申込、「KOBE C 情報」の内容をホームページで発信した。

また、「ジャズの街神戸」推進協議会のウェブサイト「JAZZ TOWN KOBE」や神戸国際フルートコンクール公式ウェブサイトの運営を行ったほか、ツイッターやフェイスブック、インスタグラム等多様な SNS を活用して、リアルタイムの情報発信に積極的に取り組み、ホームページでは紹介しきれない細かな情報発信、「いいね」「リツイート」による SNS ならではの情報拡散などで事業広報を行い事業広報に取り組んだ。

ホームページ訪問者数	2,579,686 人（月平均 214,974 人）
Facebook フォロワー数	6,124 人
Twitter フォロワー数	4,049 人

(5) 広報・PRの強化

広報PR及び法人等への営業の専門部署として設置された営業企画課で、区民センターの講座受講者へのチケット斡旋販売や、公演の入場者に対して次回公演時の割引券の配布等を行い、入場者数の増加につなげるための取り組みを行ったほか、神戸市室内管弦楽団・神戸市混声合唱団のホームページのリニューアルを行った。

また各事業において、SNS アカウントを開設し、動画配信を行うなど独自のメディアを活用した事業広報を実施した他、首都圏や関西圏でのプレスランチョンや記者発表を行う等でメディア広報PRの強化を行った。

収益事業

<収益事業>

(1) 神戸文化ホール貸館・管理事業

神戸文化ホールにおいて、コンベンション等文化活動以外を目的とする活動の場の提供を図る。また自動販売機設置や駐車場等神戸文化ホール利用者へのサービス向上を行う。

※施設概要 大ホール、中ホール、リハーサル室、練習室 1～5、
多目的室、特別控室

自動販売機 : 7 台

駐車場（神戸文化ホール練習場） : 10 台

【貸館利用件数】 大ホール 合計 299 件 うち収益 110 件
中ホール 合計 299 件 うち収益 78 件

(2) 神戸アートビレッジセンター貸館・管理事業

神戸アートビレッジセンターにおいて、地域の集会等文化活動以外を目的とする活動の場を提供した。また、自動販売機設置による利用者へのサービス向上を図った。

※施設概要 多機能ホール、視聴覚ホール、ギャラリー、リハーサル室 1～2、
会議室 1～2、スタジオ 1～3、1room 等

自動販売機 : 4 台

【貸館利用件数】

ホール	合計 585 件	うち収益 9 件
シアター	合計 546 件	うち収益 2 件
ギャラリー	合計 627 件	うち収益 4 件
リハーサル室	合計 964 件	うち収益 131 件
スタジオ	合計 782 件	うち収益 13 件
アトリエ	合計 75 件	うち収益 0 件
会議室	合計 618 件	うち収益 56 件

(3) 区民センター講座・地域連携事業

当財団が指定管理者として管理運営する 7 各区民センターにおいて、美容・スポーツ等の文化振興目的以外で利用者ニーズの高い講座や自主事業を開催した。

※例 講座：健康体操、スポーツ吹矢、バドミントン、卓球等

自主事業：コミュニティフェスティバル、卓球大会等

【定例講座件数】 合計 1,309 件 うち収益 285 件

【地域連携事業件数】 合計 150 件 うち収益 9 件

(4) 区民センター貸館・管理事業

指定管理者である区民センターにおいて、イベント等文化活動以外を目的とする活動の場を提供する。また自動販売機設置や駐車場等区民センター利用者へのサービス向上を行う。

※施設概要 大ホール、会議室、多目的室、和室・音楽室・美術室・陶芸室、
体育館等

自動販売機 : 21 台

駐車場（北神区民センター） : 123 台

【貸館利用件数】 合計 41,355 件 うち収益 12,182 件

法人管理運営事業（法人運営全体に関わる事業）

（１）専門性の強化・人材育成

職員の知識向上及びスキルアップを目指し、人材交流を含め当財団内外での研修を充実させるなど、職員一人ひとりの能力・専門性を高め、文化事業を担う団体としての能力向上に努めた。

（２）効率的な執行体制

神戸市室内管弦楽団及び神戸市混声合唱団の幅広い活動に加え、「KOBE ミュージックポート～冬の音楽祭～」や「TRANS-KOBE」など大規模事業の実施に必要な事業間の連携や事業執行の効率化、専門性の向上に必要な財団組織を改正し、効率的な執行体制を確立した。

（３）経営基盤の強化

事業における更なる経費の見直しやシステムの導入、アウトソーシングによる業務の効率化などを進めるとともに、インリーチ・アウトリーチ事業や「TRANS-KOBE」など公益性の高い事業に対して国等からの外部助成金の積極的な獲得を行った。

（４）KEMS ステップ２の活動

環境負荷低減を図り、神戸環境マネジメントシステム（KEMS）ステップ２の認証に基づく取り組みを着実に実施した。

3 数値目標

【芸術文化の創造・発信】

	令和元年度目標	令和元年度実績	平成30年度実績
創造発信型事業の数	95	120	110

【普及啓発】

	令和元年度目標	令和元年度実績	平成30年度実績
アウトリーチ実施回数	30	130	93

【国際交流事業】

	令和元年度目標	令和元年度実績	平成30年度実績
海外芸術家等による公演等実施回数	13	11	15

【指定管理施設管理事業】

1 神戸文化ホール

		令和元年度目標	令和元年度実績	平成30年度実績
利用率 (踏入率)	大ホール	82%	75.9%	87.1%
	中ホール	88%	70.3%	92.7%
利用率 (実利用率)	大ホール	72%	66.0%	77.4%
	中ホール	76%	65.3%	84.3%
利用者数	大中ホール	53万人	415,333人	384,047人
	練習室含む	59万人	457,954人	443,773人
利用者満足度		95%	93.1%	96.7%
友の会 加入数	個人	1,700人	1,137人	1,265人
	法人	14社	0	-

2 神戸アートビレッジセンター

		令和元年度目標	令和元年度実績	平成30年度実績
利用率 (踏入率)	ホール	63.0%	82.1%	67.2%
	シアター	78.0%	75.0%	81.9%
	ギャラリー	78.0%	73.9%	66.9%
利用率 (実利用率)	ホール	63.0%	75.5%	62.0%
	シアター	78.0%	71.1%	77.8%
利用者数		181,800人	156,441人	176,283人
利用者満足度		85.0%	99.4%	99.2%

※利用者数には自主事業の利用者数も含む

3 区民センター

		令和元年度目標	令和元年度実績	平成30年度実績
利用率 (踏入率)	全体	79%	68.7%	74.2%
	うちホール	72.5%	64.9%	70.8%
利用率 (実利用率)	全体	51%	45.5%	49.2%
	うちホール	46%	41.6%	45.2%
講座受講者数		25,000人	23,800人	24,500人
利用者満足度		95%	95.7%	98.0%

【財団管理・経営関係】

	令和元年度目標	令和元年度実績	平成30年度実績
経営目標（年度収支の均衡）	±0	28,401千円	3,011千円